

研究成果情報

令和元年度

多目的防災網施設を利用したモモせん孔細菌病の耕種的防除技術		
[要約] もも園全体を多目的防災網で覆う防風施設により、多方向に対する高い防風効果が得られ、慣行の薬剤防除と併用することにより、モモせん孔細菌病の発病を大幅に抑制することができる。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科 環境・施設科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

モモせん孔細菌病は風雨により感染が拡大するものの重要病害である。本県のもも産地は風の強い平野部に位置するために被害が多く、薬剤散布だけでは十分な防除効果が得られていない。そこで、もも園全体を多目的防災網で覆う防風施設による耕種的防除効果を明らかにし、新潟産ももの生産安定と農業者の所得向上を可能にする。

[内容]

- 1 多目的防災網を利用した防風施設は、高さ4mの果樹棚を設置し、天井部分を9mm クロス目合いのポリエチレン製ネットで覆い、側面を4mm 目合いのネットで覆う構造とし、展葉前の4月上旬から落葉期の10月下旬まで上部のネットを展張しもも園全体を被覆する(図1)。
- 2 多目的防災網施設により、栽培期間中の顕著な防風効果が得られ、台風時においても多方向からの風を抑制することができる(図1)。
- 3 慣行の薬剤防除と併用することで高い耕種的防除効果を発揮し、モモせん孔細菌病の葉での発病、果実発病を抑制することができる(図2、3)。網の被覆により鳥害、虫害等も抑えられ、早期落葉防止により果実肥大も良好になるため、健全果収量が大幅に増加する(図3)。

[導入効果]

病害果の減少によるももの安定生産

[導入対象]

既存もも産地や新たにももを栽培する農業者

[留意点]

- 1 多目的防災網施設の導入には10aあたり資材費115万円と施工を全て委託した場合は施工費130万円程度を要する。施工方法は「モモせん孔細菌病対策多目的防災網利用マニュアル」を参照する。モモせん孔細菌病常発地では、収穫果の3割程度が被害を受け、10a当たりの被害額は年間30万円(750kg×400円)以上と考えられる。
- 2 訪花昆虫による受粉を妨げないために開花期間中の好天日はネット側面部分を開放する。

[具体的データ]

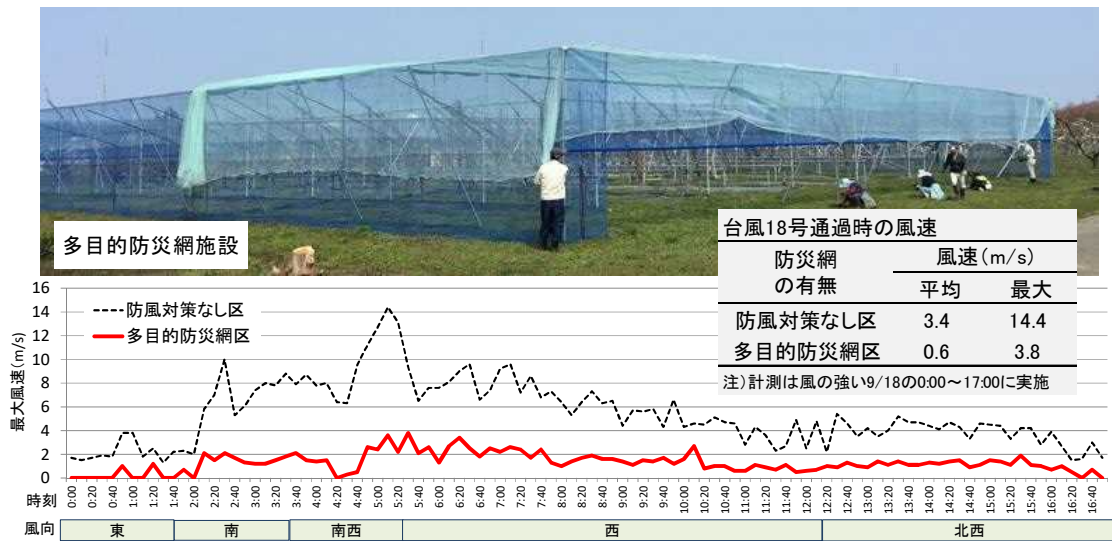


図1 多目的防災網施設による防風効果(平成29年台風18号通過時の風速、風向の推移)

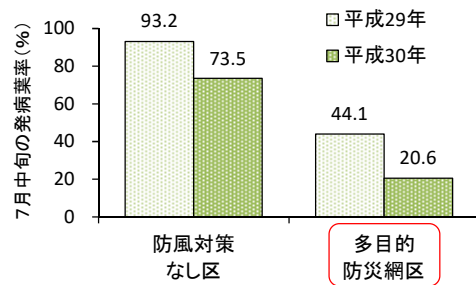
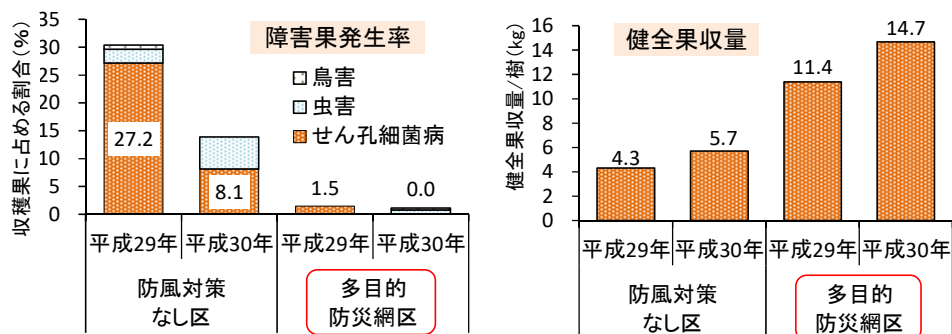


図2 多目的防災網施設による防風対策が収穫前のモモせん孔細菌病発病葉率に及ぼす影響(品種:あかつき)



注 図中の数字はせん孔細菌病発病率

図3 多目的防災網施設による防風対策が障害果の発生と健全果収量に及ぼす影響(品種:あかつき)

[その他]

研究課題名:モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究
 予算区分:外部資金(革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト))
 研究期間:平成28~30年度
 発表論文等:園芸学会平成30年度春季大会(平成30年3月)